

質 問 順 位	2	質 問 者	渡 邊 龍 之 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
1. 市政運営の基本的な考え方	1. 滝川市の現状と認識について	1. 市政の運営に携わり7年を経過します。市長として1期目には華々しく自らの公約を掲げ全力で取り組んでこられました。公約の重みは十分理解されていると思います。公約の実現は、政治姿勢の表れだと思います。そこには当然リーダーとしての強い気持ちと想いが必要であれば市長の目指すまちづくりが前進しないものと考えます。 2期目に入り、更に地方創生に関わるまち・ひと・しごと関連に結びつく施策を展開しています。しかし、全国画一的な内容であることに若干違和感を覚えます。 滝川市を全国に発信していくためには、市民ファーストの視点で市政の運営を進めていくべきと考えますが見解を伺う。		
	2. 滝川市の進むべき方向性について	1. 滝川市総合計画では、確実なまちづくりを示唆しています。あくまでも主役は市民ひとり一人であることは当然であると考えます。市民生活を営む上で、安心・安全なまちづくり、子どもから高齢者、障がいのある人もすべての人が求めるものを先取りした形の行政運営が望まれると思います。 総合計画に基づいた中での行政の役割、市民の役割を広く周知していくことが重要と考えます。滝川市を取り巻く環境は厳しいものと認識していますが、当市の進むべき方向性について考えを伺う。		

質問順位	2	質問者	渡邊龍之議員	
件名	項目	要旨	メ	モ
	3. 滝川市の課題解決について	1. 当市の課題は山積しています。いろいろなことが掲げられますが、財政の問題が大変大きいと思います。あれも、これもやると言っても先立つものがなければできません。やりたい事業があっても現状では措置できない状態だと思います。 財政健全化の一環であると言え、少しくらいの要望等があっても滝川市の財政状況を鑑みれば誰もが納得するかも知れませんが、職員のやる気度、本気度があれば何か新しいアイデアが創出され、好転するのではないかと思います。市長は、全国各地、国の出先機関、地方公共団体等からのさまざまな情報をお持ちだと思いますので、民間企業、団体等も含め職員との情報共有を図り、山積する課題にチャレンジする取り組みを構築すべきと考えますが、見解を伺う。		
2. 元気な産業と活力あるまちづくり	1. 農業を起点とした元気な地域産業づくりについて	1. 滝川市において、もみがらボイラーの燃焼実験を行っていましたが、過日会派で視察をしました秋田農販という会社でも、同じもみがらボイラーの販売を手掛けていました。同社の敷地内において、ボイラーの管理から温度調整も自動化され、ビニールハウスの中では、イチゴやトマトの生産を行っていました。冬期間に付加価値を高めるのに大変有効な方法だと思います。 現在における多様な市場を考えれば、どこに商機があるのかを見極める必要がありますが、いろいろな業種、形態を持った企業と農家がタッグを組んで、商品開発を目指す施策を講じるべきと考えますが見解を伺う。		

質問順位	2	質問者	渡邊龍之議員	
件名	項目	要旨	メ	モ
		2. 農商工連携事業では、農畜産物や加工品をPRし、販路拡大を進めています。その一つの例として、2020年に東京オリンピックが開催されますが、選手、役員、関係者に食事が提供されます。滝川市の農産物を販路拡大のPRに効果が高いと考えられるオリンピックに提供するなどの考えはないのか伺う。(食材納入の要件がGAP取得農産物に限定されているが、当市としての支援を含めた考えなど)		
	2. 持続可能な農業のための生産基盤・体制の確立について	1. 農業経営では、現在、規模拡大が急速に進み、1戸当たりの耕地面積も年々増加の一途をたどっています。今までは、離農した農家の人が補助作業の一翼を担ってきていましたが、高齢化による、人手不足が深刻な問題となっています。解決に向けては、法人化や農機具のICT化、GPSによる無人運転、また海外労働者の受け入れ等が考えられますが、当市として人手不足に対する支援および対策についての考えを伺う。		
3. 誰もが住みよい安全安心なまちづくり	1. 地域福祉・自立支援の充実について	1. 新年度から第7期滝川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画がスタートしますが、現在、北海道が有している居宅介護支援事業所の指定権限とケアマネジャーに対する報告徴収、指示、研修受講命令等の指導権限が、新年度から市に権限移譲されると聞いています。 現行の制度から見て新たな負担が生じたり、大きく変わることはないのか伺う。		

質問順位	2	質問者	渡邊龍之議員	
件名	項目	要旨	メ	モ
		2. 団塊世代と言われる方々が 2025 年にピークを迎え、超高齢化社会へとなっていきます。地域に及ぼす影響は大きく、地域社会の崩壊も危惧されるところです。また、生産年齢人口の低下が及ぼすものや高齢化社会の問題は、医療現場における人材不足や社会保障費の増大、また介護費用の増大に拍車をかけるのではないかと考えます。 国の施策としての取り組みが重要ですが、当市としての取り組みにおいても医療、介護、福祉が一層充実し、連携を取っていける施策を講じなければならないと考えます。新年度からの計画では、市民、地域社会、企業等も巻き込み超高齢化社会を迎えるに当たりどのような計画を考えているのか伺う。		
	2. 滝川市立病院経営計画について	1. 地域住民の健康、福祉の増進に大きく貢献し、地域医療の中心的役割の滝川市立病院であります。現在、滝川市立病院経営計画に基づいた経営改革が始まり、病院の健全で安定的な経営・運営に着手したところであります。 健全経営の推進に向けては、医師、看護師、職員の意識改革も必要ですが、医療原価（医療にかかるコスト）の分析が重要ではないかと考えます。持続可能な病院経営を考える上での取り組みについて伺う。		

質 問 順 位	2	質 問 者	渡 邊 龍 之 議 員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
4. 市民が活躍するまちづくり	1. 男女共同参画推進計画について	1. 平成30年度から平成34年度まで5年間における重点的項目を列記しています。男女が互いに性別に関係なく個性と能力を十分に発揮できる場の実現を目指す男女共同参画社会基本法（1999年施行）にあります。計画の策定過程において、市民アンケートを実施しているが、具体的項目は、計画推進に向けて行政主導でよいのか伺う。 また、前期計画からの反省すべき点、男女平等を確実に進めるための課題は何か伺う。 なお、国においても女性が輝く社会の実現に向けての施策を講じていますが、市民周知の取り組みについて伺う。		
5. 効率的な行政運営によるまちづくり	1. 財政健全化計画について	1. 財政健全とは、歳入と歳出の差である財政収支を改善し、借金（公債費）を削減することにあります。財政の健全化には大きく歳出の削減と歳入の増加の2つの手法があり、歳出の削減については、事務事業や職員数・人件費等の見直しにすでに取り組んでいます。歳入の増加については、交付税の減少が続く中で、ふるさと納税に力を入れているところです。 公債費の削減を目指すのであれば、基本的には歳出のカットがなければ思うような健全化に結びつかないと思うところです。平成30年度予算における公債費の占める割合が全体予算の9.6%となっていることから更なる健全化に向けての考えを伺う。		
		2. 平成30年度予算編成においては、収支不足を補てんする繰入金として2億5,700万円程計上しております。毎年基金を取り崩す予算編成となっているが、新年度予算で基金の繰り入れをしなければならぬ主たる要因は何か伺う。 また、基金の使途において将来的見地からの基金を取り崩さなければならない予算編成を極力避けるべきと考えますが見解を伺う。		

質問順位	2	質問者	渡邊龍之議員	
件名	項目	要 旨		メモ
	2. 第三セクターの経営改善について	1. 株式会社滝川振興公社と株式会社グリーンズが合併することで、法的手続きを踏まえ、株式会社滝川振興公社としての事業の進め方、取り組みが今後に関与する影響は出てくるのか伺う。 また、財産譲渡に係る点で減価償却のできる財産でなければならないと考えるが見解を伺う。 第三セクターは、行政サービスの補完的な部分が強いが、独自の戦略を含めた形で経営基盤の確立が求められる。 第三セクターとしての本来のあり方について伺う。		
6. 機能的な生活基盤の充実したまちづくり	1. 賑わいのある中心市街地の活性化について	1. 滝川駅前広場整備事業が継続されます。この整備事業の完了予定を踏まえて次のステップアップとして更なる駅周辺を含めた整備計画の有無は。ベルロードと一体化した計画および栄町3-3地区優良建築物整備事業と併せた計画の再構築は考えないのか伺う。		
		2. ベルロードの更なる空洞化が進むものと懸念するが、JR滝川駅にリンクしたにぎわいづくり等の施策を講じるべきと考えますが見解を伺う。		
7. 教育行政	1. 学校教育について	1. 不登校からの親への反抗、学校でうまく適応できない。このことは、教育上憂慮すべき状態であると思います。憂慮すべきと認識している対象数の把握は行っていると思うが、不登校に対する接し方も含め、学校と家庭における連携はどのような対応がなされているのか伺う。		

質問順位	2	質問者	渡邊龍之議員	
件名	項目	要旨	メ	モ
		2. 少子化による学校の小規模化に伴い、児童・生徒が集団生活から学び社会性を高めるのが難しくなっている現状で、教育的視点での課題として、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い社会性や規範意識を身につけることのできない状況の改善を図らなければと考えます。適正配置計画を進める上からも課題の点検を行う必要があると思います。 現時点において、適正配置計画の進捗と取り組みについて伺う。		
		3. 子どもの生活習慣の乱れが、学習意欲や体力・気力の低下の原因とも叫ばれています。基本的な生活習慣の育成が必要と指摘されています。平成 18 年から文部科学省において、早寝、早起き、朝ごはん運動を展開しています。特に朝食をとる効果は明らかになっています。滝川市においては朝食をとるなど、食生活実態はどのようなになっているのか。また、望ましい生活習慣を推進するに当たり、家庭や学校でどのような取り組みが必要か伺う。		
	2. スポーツ振興について	1. 近年、子どもたちの体育に係る基本的動作の低下が見られます。運動の基本である走る、投げる、跳ぶことの取り組みが不足していると思うが、学校における対応について伺う。 また、健康意識の高まりがあり、介護予防も含め老若男女、障がいのある人たちもスポーツに楽しむことができる環境づくりについて伺う。		
		2. スポーツ施設の改修および整備については、多様なスポーツが普及し、競技レベルの向上を目指すスポーツ団体も見受けられ、現行のスポーツ施設での対応ができなくなるのではと危惧するところでは。 新たな拠点となるような施設の計画が必要と考えますが見解を伺う。		